

学術委員会

1. 年度計画の実施状況

学部としての年度計画は「学習支援環境整備状況を確認し、課題点の改善を継続する」及び「BYODに向けた学部内環境の整備を検討する」であった。このうち、「学習支援環境整備状況を確認し、課題点の改善を継続する」に関しては、以下のことを行なった。

- ・人文図書室のパソコン及びプリンターの整備・利用の管理（学生用プリンターを前年度に引き続き1日15枚まで無料にした）
 - ・大学院1年生対象（専攻別）と学部1年生対象（クラス別）の人文図書室利用案内の実施（大学院：入学式、前期：人間文化学科、後期：現代社会学科・法律経済学科）
 - ・学部資料室に保管されている修士論文を閲覧に供する
 - ・Dream Campusを利用した卒業論文・修士論文データ票および修士論文要約の学生からの回収とデータ保管、卒研データベースの更新
 - ・「院生論集」に前年度の大学院修了生全員の修士論文の要約を掲載し、図書館ホームページから公開
 - ・学部資料室の整備。（1）関係教員からの要望により（旧）経済・経営コースのコーナーを設けた。（2）遺跡調査報告書などの資料の書架整理
 - ・中学・高校の教科書の整備（比較的新しい教科書を別置した）
 - ・大学入門ゼミ推薦図書の整備（平成30年度追加分と平成31年度分の人文図書室および学部ホームページへの掲載）
 - ・人文図書室備付参考図書の整備（主に継続分の購入と前年度入荷した参考図書目録作成など）
 - ・図書館備付の学生図書の募集及び選定（7月と10月）、地域資料の募集（12月締切）、図書館備付初年次学習支援図書の募集と選定（11月）
 - ・就職活動関係資料の積極的受け入れ
- また、図書館本館と連携して、以下のことを行なった。
- ・電子ジャーナルの講習会の周知とトライアルの積極的推進
 - ・図書館本館が行なうガイダンスや文献検索講習への仲介と周知
 - ・図書館リユースの教員・学生への周知（掲示・メール）

以上のような取組みにより、学生の学習支援環境の整備・改善に努め、相応の成果を上げることができた。

「BYODに向けた学部内環境の整備を検討する」に関しては当委員会では具体的な検討は行なわなかったが、豊川助手に人文図書室内のパソコン整備のサポートをしてもらいながら、学生の問い合わせに応じてきた。なお、次年度、人文図書室内にデジタルサポート室の新設を予定している（担当：豊川助手）。

2. その他の活動報告

(1) 学部紀要の発行

学部紀要は、領域別に『茨城大学人文社会科学部 人文コミュニケーション学論集』『茨城大学人文社会科学部 社会科学論集』と前年度改称されたが従来どおり紙媒体の発行だった。今年度は完全電子化に向けて検討を行い、次年度から実施することになった。

(2) 院生論集の発行

院生の研究発表の機会充実のため院生論集を刊行してきた。前年度は大学院名称の変更により『茨城大学大学院人文社会科学研究科院生論集』と改称し第1号を発行した。今年度は第2号を紙媒体と電子版で12月に刊行した。論文3本及び平成29年度修了者全員の修士論文要約を掲載した。なお、今年度は在学生から投稿が1本あった。なお、完全電子化に向けて検討を行い、次年度から実施することになった。

(3) 新任教員研究発表会の開催

6月27日に新任教員研究発表会を開催した。2名の新任教員が研究発表を行なった(来聴者30名)。

(4) サバティカル制度の利用者の選任に関する作業

平成31年度サバティカル制度の利用者の選任に関する作業を行った。

(5) 共同研究ユニットの公募と選定

学術委員会で6月に募集を行ない、選定を行なった(1グループ、20万円)。

(6) 裁判記録「常磐炭田北茨城じん肺訴訟記録」の整備

人文図書室に平成4年度に寄贈され、保管してきた裁判記録について、外部の団体(代表：茨城大学名誉教授)から複写依頼があったため、利用規則・利用申請書を検討・作成して利用に供した。

平成30年度学術委員会委員長：高橋 修